

Ontario, Canada <カナダ、オンタリオ州>

DALTON MCGUINITY、オンタリオ州首相：将来のカナダ経済を成功に導くために私たちがやらなければならない、最も大事なことは何か。最終的に至った結論は、子どもたちの人生を豊かにすること、子どもたちのスキルと教育に投資することでした。私たちは早くからマニフェストの中でそれを取り上げ、測定可能な改善が得られるよう努力し続けているのです。

TITLE: “Strong Performers and Successful Reformers in Education: Ontario, Canada”

MARY JEAN GALLAGHER、オンタリオ州教育次官補：私たちのゴールは明確です。それは、生徒たちの達成水準を上げることです。州首相は、12歳までに75%の児童が読み書きや算数のスキルを非常に高いレベルで身に付けること、9年生に進学する生徒が5年以内に卒業する割合を85%に引き上げることを目標に掲げました。

DALTON MCGUINITY：第一に、この課題を、非常に優先度の高い緊急課題ととらえる必要があります。次に必要なのが計画。それから、目的にかなった人物のリストアップ。教師もこれに含まれます。さらに粘り強さも必要です。そう、オンタリオ州の生徒の10人に4人近くが移民なのです。生徒集団は極めて多様性に富んでいます。

MARY JEAN GALLAGHER：私たちは、その「多様性」に取り組まなければなりません。そのためにも、多様性を障壁としてではなく、チャンスであり、挑戦としてとらえるのです。私たちはこれまでに、より多くの課題を抱えた学校にとって意義ある方法で、支援とリソースを投入することで、それを実施してきました。だから私たちは、ある学校集団の中で、貧困生活を送っている子どもの割合を特定できます。また、英語やフランス語が母国語でないまま学校に通っている子どもの割合も特定できます。その学区のその学校に対して、追加のリソースを提供したり、その学校や学区の教師やリーダーがそのような子どもたちのニーズに応えられるような能力を開発したりすることもできます。

テキストスライド：オンタリオ州の読み・書き・計算基準

- 2002-03年：州基準達成率 54%
- 2009-10年：州基準達成率 68%

テキストスライド：オンタリオ州の高校卒業率

- 2004年：68%

- 2008年：77%

テキストスライド：オンタリオ州は、PISA2009年調査において読解力でトップ10に相当する成績をあげた。

テキストスライド：オンタリオ州の学校では、生徒10人のうち4人が移民である。しかし、PISA調査では、移民の生徒とカナダ生まれの生徒は同等の成績を収めている。

テキストスライド：多様な背景の中で、なぜ、オンタリオ州の政策が子どもたちを成功に導くのか？ Unionville 高校の場合・・・

教師：今学期が始まったころ、皆こう言ってたわね。「もっと上手に話せるようにならなきゃ」って。これはその一環なの。皆が話すためのチャンスです。そして、もう1つだけ言っておきたいこと。それは、すべてのボキャブラリーはもう、この壁にあるってこと。そうよね？

BEN LEVIN、旧オンタリオ州教育副大臣；オンタリオ教育研究所教授：私たちは、州のシステムの中で得られた長所を足場とすることに重点を置きました。システムの中に、たくさん長所があるというところからスタートしたのです。そして、私たちがすべきは、その長所を伸ばすこと。それを人々に知らしめること。称賛すること、支えること、広めること。さらに心がけたのは、州内の誰もが、その長所を共有しているという感覚を育むことでした。

MICHAEL FULLAN、オンタリオ州大臣教育特別顧問；オンタリオ教育研究所名誉教授：この戦略に欠かせないのは、何よりも、具体的なゴールを持つことです。そして、「どんな生徒でも学べる」ように、すべての下位集団が、指導を改善する戦略を持つこと。さらに到達点をモニターするだけでなく、新たな戦略から知識をフィードバックすることも必要になります。

教師：さあ、どこまで読んだかしら？ もう読み終わった？ それじゃあ、一緒に読んだ後、何があったの？

MARGUERITE JACKSON、オンタリオ州教育質保証責任局（EQAO）：研究結果から、子ども個人としては、早期に学習して習熟することが重要です。8歳と6年生（12歳）の児童に対し、読解力と計算能力の評価を行っています。それからもちろん、15歳でPISAも行います。これにより、最初の評価である8歳の時点から、子どもたちを追跡すること

ができるようになりました。そして、2つのことが分かりました。第1に、6年生と15歳の両方の時点で、その年齢集団における読解力と計算能力の習熟レベルを達成した子どもは、その後も習熟を保つことができるのです。

教師：この単語で、この課題はやりやすくなったと思う？

生徒：そう思います。

教師：それとも、この単語も同じように難しいかしら？ 辞書にはこう書いてあるわね。目標や結果を得るために計画された方法。これを踏まえて、この単語を使った例文を作ってみてくれる？

MARGUERITE JACKSON：第2に、これはこの数年間、私たちが本当に重きを置いてきたことですが、習熟を達成できていない子どもたちに対して支援するということです。そして、達成できていない子どもについては、6年生までに支援を実施すると、15歳で再び調査したときにその習熟度を保持しているという、非常に重要なデータが出ています。

BEN LEVIN：我々は、各戦略の進捗を追跡するために、非常に洗練されたプロセスを行ってきました。高校の卒業を例にとると、2004年に面白い現象がありました。州内の高校が、自校の生徒の卒業率を知らなかったのです。誰が卒業できそうなのかも知りませんでした。学校は、9年生および10年生のうち何人の生徒が、すべての単位を取得しているかも知りませんでした。1年後、それができるようになりました。それは、我々が強制したからです。つまりこれは、我々のモニタリング手法なのです。9年生ですべての単位を取得していれば、12年生で卒業できるチャンスが飛躍的に向上します。そこで我々は、すべての学校や新しいが学校が一堂に会し、今やっていること、うまく行っていること、そうでないこと、学校がいつでも「自分たちの現状と改善方法」について尋ねられることを、ある意味定型化することについて話し合うことができるようなプロセスとなる仕組みを構築しました。

MICHAEL FULLAN：読み書き計算能力開発室（Literacy and Numeracy Secretariat）がやることは、毎年、EQAO から得られるデータの一部として、すべての学校の成績を特定することです。そうすることで、どの学区に行っても、例えば、英語学習者の成績はどのようなのか、特別学級はどのようなのか、移民はどのようなのかを知ることができます。そのすべてが、我々のモニタリングシステムの一部なのです。つまり最終的に、戦略にそってまとまったデータが得られるのです。例えば10校を選んだとします。どの学校が英語学習でいい成績を収めているのか？ どの学校が男子の識字率が高いのか？ これだけで何でも知りたいことがわかるのです。次に望むのは、成功を収めるための具体的な方法に到達すること。

さらにそれを明確に特定し、広めることです。

教師：さあ、ここで何が起きているか、考えてみましょう。力学、調音・・・ここから音楽を作ることができます。

BEN LEVIN：私たちの重要なスローガンの1つに、「どの学校にも改善が必要」という言葉があります。私たちは、最下層の10%や15%だけに集中しようとしているわけではないのです。すべての学区、すべての学校が、改善に関与しなければならない。現状がどうであれ、です。そのうえで、オンタリオ州には特定のグループ間に大きな習熟度のギャップがあることを私たちは知っていますので、それらのグループに対する対策を行うのです。例えば、オンタリオ州には、大規模な英語学習コミュニティがあります。そこで、フランス語を話す生徒と話さない生徒の取り扱いに、州内で一貫性がないことが分かりました。それで私たちは、英語学習者向けの戦略を開発したのです。その必要性がありました。新しい政策の実施が急務だったのです。そのために、教師の訓練が必要でした。

テキストスライド：オンタリオ州の「生徒の成功」戦略

- 中退率を下げる
- 卒業率を上げる

戦略の一環として、オンタリオ州のすべての学校に新しい教育職を設置

- 「生徒の成功」教師
 - もがいている生徒に対する教師の注目をまとめる

PAT JOHNSON：1学期の前半、彼は休んでいました。後半は美術をとりました。彼は弦楽器が得意で、音楽の成績は良好です。なので、放課後の単位をとることができるでしょう。彼は言語のスキルは必要ないと思います。とても上手に話しているので。

SUSAN LOGUE, **Unionville High School** 校長：「生徒の成功」について聞いてすぐに、州教育省の目的やイニシアチブとしてのそのプログラムに、とてもワクワクしました。それは、生徒と、生徒の成功を対象としている。まさに、私と同じことを言っていると思いました。さらに、すべての生徒をサポートすること、すべての生徒が成功するための機会を複数与えられることに興奮したのです。

教師：彼にとってのサポートって何でしょうか？ 今度、新しくドラマのクラスが作られます。それは、9年・10年合同クラスのドラマになる予定です。このクラスが、彼にとって英語を習得するいい場所になるのではないのでしょうか。

PAT JOHNSON (繰り返し) : 1 学期の前半、彼は休んでいました。後半は美術をとりました。彼は弦楽器が得意で、音楽の成績は良好です。

PAT JOHNSON、Unionville High School の「生徒の成功」教師 : 多くの生徒が、十分な単位を取得しているので、政府の統計では特定されることがありません。母国では成功していた生徒たちです。そこで何が起こるのかというと、英語への移行で失敗して、後れを取ってしまうのです。だから私たちは、彼らが母国で収めていた成功を維持できるような方法を見つけなければなりません。

PAT JOHNSON : それで、部活には入るの？

生徒 : はい

PAT JOHNSON : いいわね。どんなスポーツが好きなの？

生徒 : 陸上です。

PAT JOHNSON : 陸上ね。そうね、素晴らしい陸上部があるんだけど、春までは活動しないのよ。それまでに何かをするつもりある？ じゃあ、2 学期には、科学 2 はやらないことにしましょう。ここでレベルを変えたから、あなたのためにはならないわ。代わりに、ここに何かを入れましょう。何かを見つけなくちゃね。あなたは、どんな変更を望むかしら？

SUSAN LOGUE : 学校で生徒をサポートする方法は、数えきれないほどあります。どの学校にでもです。生徒の成功のレンズを通して。一般的に、教職員のニーズのすべてを巻き込みます。これは協働の取り組みなのです。あるひとりが、そのための専用の時間を持っていたとしても、それは同時にやってくるのです。これは本当に、学校全体のイニシアチブなのです。Unionville でやっている方法は、職員会議であり、大規模グループでの会議を通じて、扱いの難しい生徒や危機的な状態にある生徒について、全員が関与するという方法をとっています。

PAT JOHNSON : 彼女の去年の成績はまずまずでした。英語については、お母さんが継続を希望しているので、アカデミックなレベルへの挑戦を続けていきたいと思います。彼女は今、もがき苦しんでいます。彼女はすでに私の言うことを理解し、私も先学期、彼女と一緒に取り組みました。3U がとても難しいらしく、何を問われているかも理解できない状態です。

PAT JOHNSON : 週に1度の会議があります。これによりチームが集い、注目している生徒の動向を追うことができます。メンバーはガイダンス、特別クラス、選択クラス、英語教師、管理職から成り、その全員が会議に出席します。そこで私たちは、成功しているように見えない生徒のレビューをします。

教師：卒業するには必修の18単位が必要ね。それから選択の12単位も。あなたが香港から持ってきた成績表によると、あなた、単位が足りてないみたい。

SUSAN LOGUE : 直接やってくる生徒もいます。4科目、すべてを落としているんです。交通費を支払うお金もない。親がいないまま、この国に暮らしているんです。両親が中国に住んでいる場合もあります。そこで、チームがネットワークを築くのです。文化的な定着を図る教職員から管理職、それに、選択クラスの教師までのすべてです。そして、関係を築き、成功に向けたプログラムを設定するのです。子どもを見据え、どうやってサポートするかを総合的にとらえている。それこそが、ベストな生徒成功チームの例なのです。

PAT JOHNSON (生徒と一緒に本を読みながら) : 彼女は学校に行こうとしているわね。皆が私のことを、目が覚めているって言うなんておかしいわね。これは私にとっては新しいこと。きっと、9時間寝た後だったらもっとマシだったんでしょう。つまり、彼女は夜通し起きていたってことね。

PAT JOHNSON : 他の仕事を抱えていたら、一部の生徒に必要な個別の対応はできません。一緒に座って教科書を読んだり、課題を理解していないときに課題を見直したり、そんな時間はとれないでしょうから。それが難しいのは、他の仕事を抱えているから。だから、この役職を作ることで、シンプルに生徒のニーズをもっと満たすことができるようにしたかったんです。そのためにはたくさんの時間が必要なのです。

SUSAN LOGUE : カナダに来たばかりで ELL に来る生徒について、私たちは考え方を180度変えて、費用を保証された生徒が、私たちの学校に歩いてきたととらえる必要があります。彼らが世界中から持ってきたものは、私たちが彼らに与えるものではなく、また、与える機会すらなかったものです。では、私たちが彼らの擁護者になって、学習者としての彼らをサポートするにはどうしたらいいのか？ 理想的には、まず彼らが自分自身についていい思いを抱けるようにすること、それから言葉に取り組む。その後、それらを組み合わせ、「生徒の成功」チームとともに、学習のサポートにぴったりの優秀な教師を見つけてやることだと思います。

MARY JEAN GALLAGHER : この取組みを5~6年続けているうちに、州内の英語学習者

間の成績のギャップは、ほぼ半分に縮まりました。新しい英語学習者の成績グラフを見ると、一般集団よりも急速な改善と、改善の証拠が見られます。このことは、生徒の 40%以外が州外からやってくるという州において、非常に重要なことなのです。

BEN LEVIN：事態の好転が見られた学校の 1 つを訪問したときの話をさせてください。2005 年か、2006 年のことだったと思います。その学校では、標準の成績を収めていた生徒は 18%でした。しかし 3 年後には 71%になりました。これは実に大きな改善です。教師らはこう言いました。「どの学校だって同じことができる。なぜなら私たちは特別なわけではないから。私たちは、昔の教え方に戻ることは二度とないでしょう」これこそが、改善の持続可能性なのです。なぜなら教師らは間違いなく、その時の働き方が、かつての働き方に比べて断然優れていると信じていたからです。教師らにとって満足のいくものであり、子どもたちにとっても優れている。これが、懲罰的でもネガティブでもなく、ポジティブで専門性を高めるアプローチをとることの重要性なのです。校長、教師、生徒、保護者が違いを理解し、それを信じることで、継続していくことができるのです。